椿商品で大船渡を盛り上げよう！

椿油をそのまま使っていた昔とは異なり、今、椿を素材にした新商品が続々と誕生しています。

株式会社 バンザイ・ファクトリー
代表取締役　高橋和良さん

2012年に陸前高田市に工房を建設し、地元の人々を雇用して椿茶や椿油を使ったパスタや冷麺を製造。2018年4月から大船渡市内に3棟の椿工場を新築し、商品の量産体制を整える。

◀パスタの断面はソースが絡みやすい星型。

三陸 星椿麺

商品開発の苦労

誰もやっていなかった製法や商品をゼロから生み出すことは失敗も多く、多数の商品を開発し売り出すには先行投資、時間、苦労がつきものです。

「椿茶」だけでも、構想から研究開発をして、プロダクトライン、デザイン、パッケージを考え、1次卸2次卸3次卸を念頭に原価を調整し3年かかりました。「三陸椿冷麺」は4年半もの開発期間をかけました。

ただ商品を作り出すだけではなく、魅力ある商品を売り出し、ゆくゆくは椿といえば“三陸”の名前がでるようにブランド力を持たせたいと考えています。

参考：
バンザイ・ファクトリー
http://www.sagar.jp/
絵本「三陸椿物語」より

椿を使った商品

バンザイ・ファクトリーでは「気仙椿」を使った人気の商品を生み出してきました。

1つ目は「椿茶」。岩手県気仙地域に咲く「気仙椿」から一枚一枚丁寧に採取した葉を乾燥させ、県北部の九戸村産の甘茶とブレンド、手もみを繰り返し製茶した商品です。

2つ目は「三陸星椿麺」。こだわりの厳選素材を使用した極太麺と椿油を使った絶品オリジナルソースがよく絡む星形のパスタです。

3つ目は「三陸椿冷麺」。麺に椿油を練りこんだ売れ筋一の人気商品。盛岡冷麺とは違う感触のとても美味な麺とスープです。

他にも「気仙椿をシンボルにして深く根を張り、強く美しい商品をこの地で生み出したい」という思いから「三陸椿物語」というブランドイメージをつくりました。

三陸 椿冷麺

◀お子様や女性に人気の爽やかな味わい。

椿茶

▲椿の葉と九戸の甘茶をブレンドしたほんのり甘いお茶。

椿を植えて遊休農地を活用する活動もしている。

元・大船渡市農業委員の大和田東江さん（左）、上部泉さん（右）

椿の魅力を伝える人々！

椿の里づくりは、その美しさや魅力を様々な形で伝え続ける人によって支えられています。

大船渡の農家の皆さんも、荒れ放題になってしまった遊休農地に頭を悩ませています。遊休農地を解消するため椿に目をつけて活動してきたのが大船渡の農業委員の方々です。元・大船渡市農業委員の大和田東江さん、上部泉さんからお話を伺いました。

椿の里を椿で守る

農業委員は、遊休農地に椿を植えることで椿の里である大船渡のイメージアップにつなげ、また少しでも農家の方々の収入になるようにと活動をしています。大船渡は椿の里と言っても「椿はどこにあるか」と疑問を持つ方がいるかもしれないと考え、誰の目にも触れる場所に椿を植えたい、広げたいという気持ちで遊休農地を活用した椿の植樹を進めています。

椿の里が抱える問題

1つ目は管理の問題です。もともと管理が行き届かなくなったことが原因で遊休農地となった場所も多く、椿を植えても除草や生育の管理を行える方が少ないことが挙げられます。

2つ目は椿の生育は時間がかかるという問題です。苗木を植樹した後、実が成り種を集め、一定量の椿油が取れるまでには10年以上かかると言われています。他の農作物のようにすぐに収穫・売上に繋がりにくいという点があります。

椿の里の本当の意味

椿が十分に生育するには気候や風土に恵まれなくてはなりません。大船渡を初めとした気仙地域では〝三面椿〟を中心に昔から椿が自生していますが、同じ岩手県でも雪が積もる他の地域では椿はあまり咲きません。まさに椿は「気仙の宝、自然の恵み」です。そんな逞しく根付く椿の姿に私たちは魅了されるのです。

及川宗夫さん
椿工房　おいかわ

楽しんで制作することをモットーに。数々のヒット作品を「世界の椿館・椿石」で販売。

小松ヒトミさん
糸紡ぎ工房　ハベトロット

落ちて間もない椿の花びらを拾い集め、もう一度その美しい色を輝かせる椿染め。

野田はるみさん
リッカ　ルシッカ

椿の命を、そして大船渡と他の場所を「つなぐ」をテーマに作られたアクセサリー。

https://www.instagram.com/likkalusikka/

椿を形に…

大船渡には椿の素晴らしさに着目し、モノにして伝えていこうとする方々がいます。今回はその中の3名をご紹介します。

まずは、末崎町の及川宗夫さん。椿の実や殻を使い、ブローチやマグネットなど、独自の椿雑貨を自宅の工房で日々制作をしています。

つぎに、大船渡町の小松ヒトミさん。地域性を出す商品を考えていたところ、椿の花びら染めに辿り着き、さまざまな染物商品を手掛け広める活動をしています。

最後は、大船渡町の野田はるみさん。本物の椿の花びらを特殊加工し、ネックレスやイヤリングにして販売しています。イベント等でのワークショップにも積極的に参加されています。

3名とも異なるモノではありますが、それぞれが椿の特色や多様性を十分に活かし、素敵な商品へと変貌させ、私たちに椿の持つさまざまな魅力を伝えています。